

# 新風

発行 神石高原町議会議員

## 木野山孝志 後援会

平成23年12月31日 NO.29

神石高原町父木野2953-1

ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~t-kinoyama/>



平成24年の新春を迎えましたが、昨年を振り返ると激動の年でした。菅、野田と続く民主党政権のもと、大阪市長選の橋下氏当選による地方分権への流れ、3月の東日本大震災とそれに伴う原発事故、復興処理の遅れと放射能汚染、EU諸国の

我が町に目をやると、平

謹んで新春のお慶びを申し上げます  
昨年は大変お世話になりました。ありがとうございます。  
早いもので、新町発足から8年目の新春を迎えました。  
初心を忘れず、本年も一生懸命頑張りますので、倍旧のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

神石高原町議会議員

木野山 孝志

成23年度は井関住宅団地造成、CATV整備、新三和小学校建設の3プロジェクト事業が完了しその運用の年と成りました。住宅団地は平成24年度で50戸売却の目標へむけて昨年末で35戸の完売、CATVの運用開始、6月定例会から議会で継ぎも始まり、4月から123名の元気な児童が通っています。インターネット加入や今後の利用拡大、源流の里対策、無医地区の対策、保育所や支所の在り方、教育環境整備、農業、産業振興等々、そして何より少子高齢化対策、課題はたくさんあります。

町長、町議会議員ともに「町民の負託にこたえら任期はあと1年を切りました。国の総理大臣と違い、地方は、首長、議員ともに直接選挙のよって選ばれた二元代表制です。とにも町民に付託された役割を自覚して、最終年度激論を戦わすことになるでしょう。」

私も、この一年は初めに議会としては、12月定例会が招集される前日の8日、議会としての政策提言書を町長に提出しました。また、12月定例会に

私、この一年は初めに議会としては、12月定例会が招集される前日の8日、議会としての政策提言書を町長に提出しました。また、12月定例会に

## 減債基金1億円を積立

### 12月定例会

12月定例会は、12月9日から16日まで開かれ、70万円となりました。

主なものは、次ページの表のとおりですが、将来の借金返済に備えて減債基金に1億円の積立、神石小学校改築設計に2590万円、農地、農業用施設災害補助復旧事業に2095万円などが追加補正されました。

平成23年12月一般会計補正予算			
			(単位:万円)四捨五入
費目	補正予算	補正後予算	主な内容
議会費	49	1億0196	議会経費 45
総務費	345	17億9608	職員人件費183、一般管理費▲671、 省エネ・グリーン化支援事業170、税務総務費250
民生費	2272	17億1486	社会福祉総務経費(送迎用車両など)273、障害者介護1743 介護保険繰出経費▲194、子ども手当102
衛生費	90	10億1652	やすらぎ苑200
農林水産費	▲4698	9億1764	地籍調査費▲1510、林業再構築プロジェクト▲5279、林道大島線1465
商工費	40	9224	自然公園管理経費30
土木費	▲5782	5億0114	町道維持(油木・豊松)400、 社会資本整備総合交付金事業(仁後線。仁川谷・時安)▲5886
消防費	▲83	4億4211	トランシーバー17
教育費	2815	6億1167	神石小学校改築設計2590
災害復旧費	2099	3億9266	農業施設災害37箇所・農地災害38箇所
公債費		22億2020	—
諸支出金	1億	11億1477	減債基金積立経費 1億
予備費		4000	—
合 計	7147	109億6186	

△条例改正▽  
 ○神石高原町税条例の一  
 部改正  
 町民税に係る不申告に  
 対する過料を3万円から  
 10万円に引き上げる。  
 (脱税対策)



三和小学校 第1回学習発表会

< 12月定例会(主なもの) >

- 教育委員会委員の任命同意  
藤原和則さん(上豊松) S28/07.02 生  
ご活躍をお祈りします。
- 工事請負契約の締結  
屋外用放送用拡声装置設置工事  
工事場所 町内 33 箇所(油木 9・神石 10・豊松 5・三和 9)  
請負金額 72,586,500 円  
請負者 西日本電信電話(株) 広島支店  
工 期 議決日~H24/03/23  
(※ 6月議会・予算 8,085 万円 公募により入札 12・11 仮契約)

本町の公債費負担適正  
 化計画改正(平成23年度  
 分)の概要が公表されまし  
 た。実質公債費比率が平成  
 23年度が18%となり次  
 年度は18%を切る見通し  
 となったので、次年度から  
 は計画書の提出は不要と  
 なりました。  
 合併当時は、過剰な施設  
 や借金で高比率でしたが、  
 平成20年度からの普通交  
 付税の増額や繰上償還の  
 実施などで比率が改善し  
 ました。  
 適正化に向けた主な取  
 組みは、①借金返済額の半  
 分しか借りない。②事業は  
 継続事業に限る。③減債基  
 金の積立と繰上償還を行  
 う。④水道事業の効率化を  
 図るなどです。  
 今後予定の神石小改築  
 5億円、統合中学校建設  
 14億円は計画に参入され  
 ています。引き続き健全  
 化の努力が必要です。  
 実質公債費の推移は表  
 のとおりです。

公債費負担適正化計画を改正  
 平成23年度18%に

実質公債費比率の見通し						
< 既往債及び財政計画に基づく実質公債費負担の将来設計 >						
	前年度 H17年度	計画策定年度 (H18年度)	第4年度 (H21年度)	第5年度 (H22年度)	第6年度 (H23年度)	第7年度 (H24年度)
単年度	20.2%	22.4%	18.1%	14.6%	11.6%	10.9%
3力年平均		19.8%	21.9%	20.5%	18.0%	14.7%



# 一般質問

★9～10月実施の学力調査の結果は  
(課題は解消できていたか)

★教育体制(環境整備)の長期的展望は

本町では、文科省の全国学力状況調査の中止により、9月から10月にかけて学力テストを実施された。そこで22年度の課題に向けての取組みの結果はどうだったか。平成21、22年に実施した学力・学習状況調査によって把握された本町児童の課題は解消されたか、また今後の取組みについて伺う。

平成22年度は学力については小学校の国語、読むことが県平均をわずかに下回るだけで全て国・県の平均値をかなり上回っており、基礎学力等についてはかなり付いてきている。

問題だと思われるのは、生活・学習のところで、国・県レベルを下回っており平成21～2年にわたり解消されていない部分が有る。自己肯定感、将来の夢・目標をもっているかが平均を下回っていた。読書、読書習慣についても全国、県レベルを下回っていた。

## 基礎基本は定着

**教育長** 全国学力状況調査では、小学校に於いては算数のA問題が全国の平均正答率を1ポイント下

本的事项は小中学校ともに概ね定着して来ていると言えますが、小学校算数の基礎的・基本的事项がマインスイポイントでした。また、活用に関する問題はプラス0.7ポイントという事で昨年同様に課題の部分だと思っております。

昨年度の課題として挙げました、①小学校の将来の夢や目標はかなうと思えますか、②自分には良いところがあると有ると思います、③自分の良さは周りか

## 自己肯定感は改善

結果として、自己肯定感

や将来の夢に関しては改善の方向にあると捉えているところですが、引き続き指導の充実によって参りたいと考えています。

**木野山** 将来の夢や目標

を持っていますか。自分の自己肯定感については、非常に自己形成の上で大事なし、郷土を愛する気持ちへも繋がってくるからその辺はどうですかとずーとお願いしてきた訳ですが、縷々年を追う毎に改善をされて成果が出ているとのことです。力強く思っています。

町長も教養のまちづくりと言う事で読書の提言もされていますが、読書については昨年▲でしたが今回は改善されています。

将来に希望を持つ子どもが本町から育ちこちらに帰ってくるとか、指導者になってくれればと思います。

**木野山** 調査の結果を踏まえ、環境整備はどうする

のか。目標を持った教育環境の整備が望ましいが。

**中高連携は平成26年をメドに**

**教育長** 小中連携教育の

充実のため、各小中学校と連携し取組みを進めている。今年度からは連携型の中高連携教育の推進を進めています。これからの充実の充実に向けて行きます。平成26年度にはひとつの形を作りたい。

学力面では、中学校が今年で3年目になりますが、学力向上対策事業において各学校の連携により各学校ともに学力が相当向上してきました。この事業は今後も継続

的・発展的に取組みますが、小学校も学力の面で取組む必要がありますので、来年度から小学校にも実施します。

## 新聞記事を活用し 言語活動を充実

今年度から中国新聞と契約を締結し新聞記事の活用などで言語活動の充実を行う。読書活動により文字・活字に触れることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

郷土を愛する子どもを育てるために、地域の連携も含めて、取組みを進めてまいりたい。

**木野山** ハード面の整備

についても、スポーツ設備など充実が必要だ。



カープ野球教室  
(切田グラウンド)

## ★神石牛のブランドで全国制覇を

今は、地方分権・地方の時代を迎え、民間では無差別の競争の真ただ中にある。公でも同様に、「まちの生き残り」をかけてどうするかが問われている。まさに、「まちづくりが地方の力量」にかかっている。「攻めの体制づくりの確立」が必要で、「差別化と挑戦」が大事です。

県は、比婆牛、神石牛を中心に育種圏の統一を図り、「広島牛」として全国展開されています。

(1) 広島牛ブランドとして、種の統一がなされたが、神石牛産地の確立と拡大は出来ないか。

(2) そのためには、種の広島牛からの脱却が必要で、神石牛として種の確立が出来るのか。

(3) 現在の、「和牛の里」再構築プロジェクトの進捗状況について。伺う。



て純な種が拡散というか薄まってしまっている。神石牛として売る生産の牛が確定できない。という事になるのか。

て再生することは意義があると思います。

木野山 今の取組みはどのようになっていくのか。長期的にはどのような絵が描けるのか。現状と今後の取組みについて、具体的に伺う。

町長 不可能ではないと言っ事に繋がると思う。

一貫生産を行うことにより神石牛としての商業ブランドを取っていく。

肥育を行って初めて神石牛の基礎ができる。元牛は良いものなら他地区から入れる。

基本的には町内で肥育農家の強化を行い量的に確保できれば可能だ。

行政としても、長い期間かかりますが、神石牛とし

て再生することは意義があると思います。

木野山 今の取組みはどのようになっていくのか。長期的にはどのような絵が描けるのか。現状と今後の取組みについて、具体的に伺う。

産業課長 和牛再生プロジェクトの進捗状況ですが、平成22年度の目標年度には飼養頭数を全体で1万350頭にするとという目標を掲げました。

神石では8829頭で達成率は85%でした。繁殖牛でみると頭数が増え、950頭だったのが12350頭と増頭になっています。

成果としては、農事組合法人「和牛の里」の設立。ハード面での施設内の草地改良、堆肥舎の整備。新規就農者の就農、耕畜連携で資料イネ作付面積の増加、資源循環型農業の推進などあります。

4つの柱、①次世代に引き継げる生産基盤の確立、②優良子牛の供給、③繁殖・肥育・販売と地域内の一貫生産体制の確立、④市場流通量の向上と飼育から販売体制の整備、の下に今後取組みを進めます。

## 優良な子牛を育て供給

神石高原町の体系は繁殖牛が中心なので優良な子牛を生産し優良な成牛に育てていくという事を一番の目標にしたい。具体的には優良な子牛を育て供給することを掲げる事が必要と思っています。

向う5力年の数字目標は、神石高原町内で飼育頭数を平成27年度では2千頭としている。

木野山 町内の繁殖牛農家と、肥育農家をどう伸ばすのか。堂々と神石牛ブランドとして売っていく体制づくりが必要だ。一貫体制でやれば可能だ。

長期的に取組むとの事です。来年度からのまず「第一歩」は何が必要と思っておられるか。

## 強い意志をもって取組む

町長 町内の生産牛を拡大と一貫畜産システム強化の2本立てで行う。

町としてもこれからゼロからスタートの気持ちで強い意欲を持って、取り組みたい。

木野山 私の提案としては、一貫体制づくりのために、来年度に、ひとつの協議会のような機関をまず創り、ブランドの登録など手掛け、最終的には新しい会社を立ち上げて挑戦するというのがどうかと思います。

## 長い期間が必要

町長 神石牛とは生産牛として意義付けていた。

今はそうではなく肥育した段階で、系統の良い牛なら肥育して良いサシの入ったA5、A4とランク付けされた牛が、広島牛・

広島和牛となる。

木野山 牛の頭数が足りないことは聞いている。

神石牛としての種の確立は難しい。系統を過去に探しても県の方策によっ